

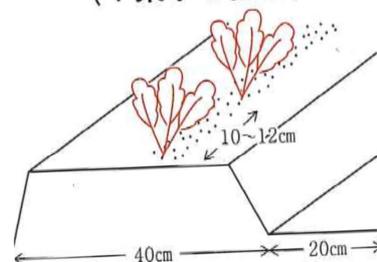
施肥例

(a 当り)

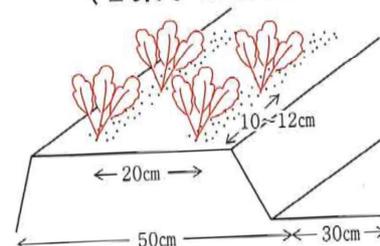
| 肥料名 | 基肥 | 追肥 | 備考 |
|-------------|-------|-----|----------|
| 完熟堆肥 | 200kg | —kg | 成分量 |
| 苦土石灰 | 15 | — | 窒素 2.4kg |
| BMようりん | 4 | — | リン酸 2.9 |
| ポリホス S666 P | 10 | — | 加里 2.3 |
| 麟硝安加里 S604 | — | 5 | |

うねつくり

(1条すじ播き)



(2条すじ播き)



■栽培管理

間引き 発芽当初とくに込み合っているところは早く間引きし、本葉2枚時(播種後20日)に株間2~3cmになるように1回目の間引きを行う。

2回目の間引きは本葉4~5枚時に行い、株間10~12cm

にする。密生していない場合は本葉4枚時に1回で間引きする。生育の悪いもの、良すぎるもの、葉色の濃すぎるもの、発芽の遅れたもの等の間引き、揃ったものを残す。間引き後、軽く株元に土寄せする。

土寄せ にんじんの青首化を防ぐため、生長点に土がかからないように注意しながら肩の部分まで土寄せする。播種後55~60日頃に第2回目の追肥とともに行う。

追肥 1回の施肥量は窒素成分量でa当り0.3~0.4kg程度とする。第1回目は播種後40日頃、第2回目は播種後55~60日頃に行う。

かん水 土壌水分は適湿に保つよう随時かん水する。生育初期から少量多回数かん水とするのが良い。

■病虫害防除

黒葉枯病 生育期間を通して発生する。発芽障害や苗の立枯れを起こすので、消毒済みの種子を使用する。地力の低いところや施肥量が少ないと発生しやすいので、肥料切れにならないように管理する。

センチュウ 播種前に土壌消毒を行う。

■収穫 播種後100~120日前後で、立性だった葉が半数以上聞き、下葉が地際まで下ってきた頃に開始する。収穫が遅れると降雨などで裂根が増加し、品質が低下する。葉を切り落とし、直ちに洗浄し乾燥させる。降雨時の収穫は、腐敗の原因になるので、なるべく収穫しない。